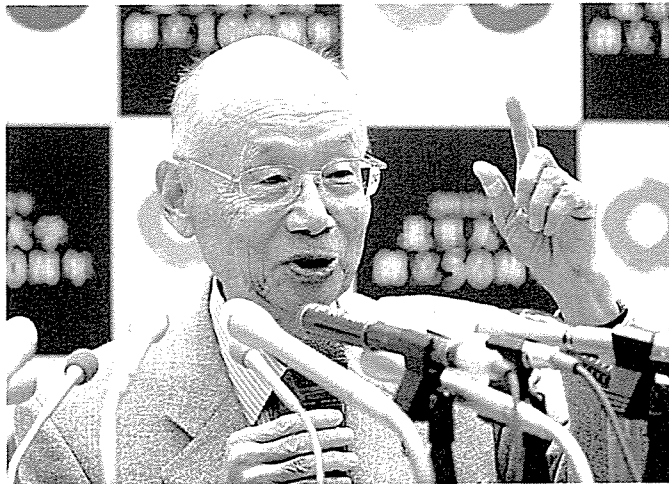


ノーベル賞 電話座談会

日本人の得意技



会見する大村智さん=5日午後、東京都港区、関田純撮影

医学生理学賞に大村智さん

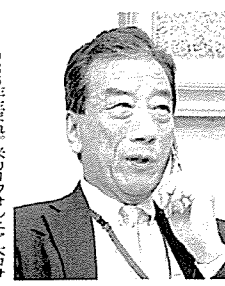
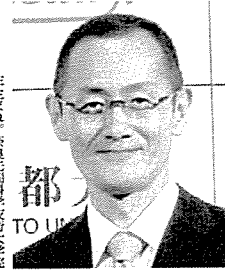
北里大特別教授の大村智さんのノーベル医学生理学賞が決まった5日夜、朝日新聞は電話で結んだ座談会を開いた。2012年に同賞を受けた京都大IPS細胞研究所長の山中伸弥さん、元日本学術会議会長の黒川清さん、青山学院大教授の福岡伸一さんが参加し、受賞の意義を語り合った。(司会) 桑山朗(東京本社社務部長)

日本人として、3年ぶりから取集するのは日本人の得意技だと思ふ。それが準備されてノobel賞につながったのは、大変な努力への評価。日本の偉人もの風土が人を助けてきた人なので、今回、ノobel賞を受けるのは当然のことかなと思ふ。

人間の病気というより、動物に効くものを、とどうとでもからストされたまうです。山中 今がなんをどの開いた歴史がある。ベニシリンを見つけたフレミング、ストリンブトマインを見つけたワックスマン、大村先生はこれに連なるものだと思う。人間は、細菌に対する画期的な批判を見つけたが、今回のような細菌やマラリア原虫に対する薬は、なかなか見つかることができません。山中 薬を天然に存在する物

自然界の物質生かす 山中さん

大村先生は、細胞に集めた材料について、構造がどうなっているのか詰めていた。山中 先生がIPS細胞を見つけていくときも、細胞をいじって大事だという作業が共通しているのではないかと。山中 共通点はあるかもしれないが、大村先生はやっていないが、僕らよりさらに大変なところがある。山中 僕らよりさらに大変なところがある。山中 僕らよりさらに大変なところがある。



京都大IPS細胞研究所長 山中伸弥さん、元日本学術会議会長 黒川清さん、青山学院大教授 福岡伸一さん

世界の問題へのメッセージ 人類の幸福への貢献を評価

研究に対するモチベーション、先達の経験を活かすのが大事ですね。山中 私も恥ずかしながら、大村先生のお仕事を、何せ、医学部に入る前なので知らないに近い。たまたま今年の1月くらいに、前回のノーベル賞が終わった直後に、ある方が私のところに来られて、大村先生の伝説をラレセントしていただいたんです。山中 僕も、大村先生は、その研究の特許料を、次の研究に投下している。先生は、賞が終わった直後に、ある方が私のところに来られて、大村先生の伝説をラレセントしていただいたんです。山中 僕も、大村先生は、その研究の特許料を、次の研究に投下している。先生は、賞が終わった直後に、ある方が私のところに来られて、大村先生の伝説をラレセントしていただいたんです。